

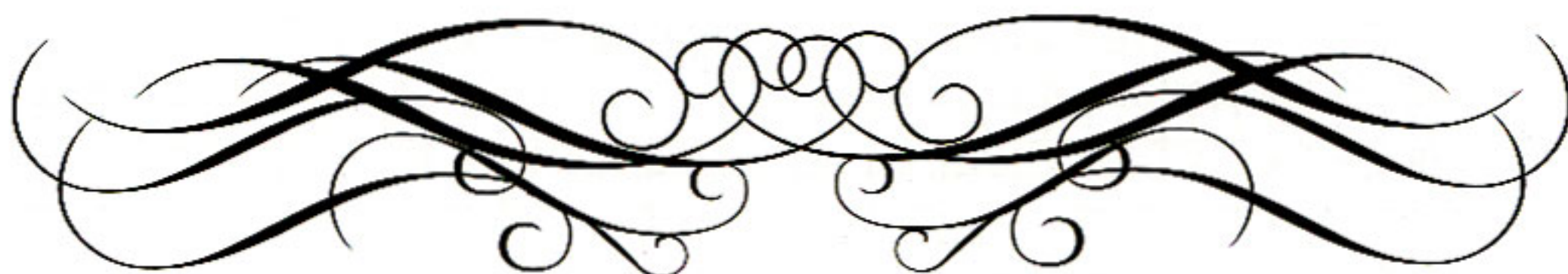
第18回

留学生による 日本語作文 コンクール

**入選作発表
2011年10月**



**主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・大阪日本語教育センター**



第18回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

RADHAKRISHNAN ASHWIN
(インド)
ラダクリシュナン アシュウィン
「故郷」

優秀賞

万 俊轍 (中国)
バン シュンイツ
「未来からの手紙」

廖 偉廷 (台湾)
リョウ ウエイティン
「周囲のことを大切にしてください」

SSENFUMA YUSUFU
(ウガンダ)
セنفマ ユスフ
「母のあいじょう」

尹 連實 (韓国)
ユン ヨンシル
「友達」

N'GBE KADJO ALBERIC
(コートジボアール)
ングベ カジョ アルベリック
「不思議なしゃりょう」

中級

最優秀賞

李 文 (中国)
リ ブン
「留学生の目から見る東日本大震災」

優秀賞

丁 洁璐 (中国)
チョウ キロ
「私の故郷の河」

史 晓悦 (中国)
シ ギョウエツ
「似合う「服」をさがしている」

CEOLIN KINZI (フランス)
セオリン キンジー
「日本の母たち」

上級

最優秀賞

金 雪美 (韓国)
キム セツミ
「私の『トイレの神様』」

優秀賞

马 荣阳 (中国)
マ エイヨウ
「なぜ猫は鼠を食べるのか」

陈 琰彬 (中国)
チン エンピン
「かねを預ける？使う？」

(注記)

この冊子をまとめるにあたり、日本語の表記能力も審査の対象となっているため、忠実に原作の表記を尊重し、補足、修正を控え原文のまま掲載する事としました。

初級参加者 52名

阎 群 (中国)
 张 润爽 (中国)
 李 宛秦 (台湾)
 林 育鋒 (台湾)
 石 学民 (中国)
 万 俊轶 (中国)
 廖 偉廷 (台湾)
 刘 思博 (中国)
 尹 連實 (韓国)
 RADHAKRISHNAN ASHWIN (インド)
 EDWIN SANTOSO (インドネシア)
 YONG SOKONTHY (カンボジア)
 雷 嘉澄 (中国)
 李 玉婷 (中国)
 RUPOSH MAHDI SARWAT (バングラデシュ)
 BAYARSAIKHAN KHALIUNAA (モンゴル)
 PODOBED DARIA (ベラルーシ)
 SSENFUMA YUSUFU (ウガンダ)
 N'GBE KADJO ALBERIC (コートジボアール)
 ALGHAMDI, FARIS ABDULLAH M (サウジアラビア)
 AKBAR, HANAA HUSSAIN A (サウジアラビア)
 HAJI, EMAN ABDULHAMEED M (サウジアラビア)
 ALAKLABI, SAMAH FAHAD M (サウジアラビア)
 AL SHAWAN, AMR SAAD M (サウジアラビア)
 ALJOHANI, ARAIG GHAITH A (サウジアラビア)
 ALSHAYE, KHALID ABDULAZIZ A (サウジアラビア)
 ASHOUR, AHMED MOHAMMED A (サウジアラビア)
 ALREFAE, ABDULRAHMAN SAMI M (サウジアラビア)

ALQIFARI, MOHAMMED YOUSEF M (サウジアラビア)
 MUDHISH, AHMED ABDULLAH A (サウジアラビア)
 BAHAMEDAN, AHMED MOHAMMED A (サウジアラビア)
 ALHUMAIDAN, ABDULLAH EMAD I (サウジアラビア)
 ALZHRANI, ZAID MOHAMMED S (サウジアラビア)
 QUTUB, WALEED FAREED H (サウジアラビア)
 ALLUQMANI, FATIMAH SALEM M (サウジアラビア)
 ALZHRANI, SAMEERAH SAEED R (サウジアラビア)
 AL OWIASHEER, ZAKIAH SALMAN M (サウジアラビア)
 MWLADDAWILAH, ABDULRAHMAN HAMED O (サウジアラビア)
 BASAMIAH, ISMAEEL ABDULSALAM D (サウジアラビア)
 ALHASANI, REEM MOHAMMED M (サウジアラビア)
 ALLUQMANI, ABDULHADI RASHED R (サウジアラビア)
 ALZHRANI, FAISAL SAEED R (サウジアラビア)
 AL OWAISHER, FAHAD SALMAN M (サウジアラビア)
 ALHASANI MOHAMMED MUSTAFA A (サウジアラビア)
 ALSOMALI ABDULKARIM AHMED I (サウジアラビア)
 ALAMRI ABDULRAHMAN ALI S (サウジアラビア)
 ALLAF ABDULGHAFFAR KHALID I (サウジアラビア)
 AIBAN NIDHAL HASSAN S (サウジアラビア)
 ALOTAIBI, MOHAMMED AHMED T (サウジアラビア)
 AKBAR FERAS HUSSAIN A (サウジアラビア)
 ALAKLABI MOHAMMED FAHAD M (サウジアラビア)
 ALJOHANI, RIYADH GHAITH A (サウジアラビア)

中級参加者 47名

林 威成 (台湾)

黄 彦萍 (台湾)

毛 红洋 (中国)

蔡 依姣 (台湾)

沈 映芝 (台湾)

沈 侃宁 (中国)

ABEJAY ROSALYN ALIBANGBANG (フィリピン)

邱 詩涵 (台湾)

麦 嘉辉 (中国)

陳 沛淳 (台湾)

王 晓娟 (中国)

冯 程程 (中国)

张 润烨 (中国)

蒯 晨洪 (中国)

孙 斌 (中国)

李 文 (中国)

丁 洁璐 (中国)

崔 アヨン (韓国)

韩 璐 (中国)

ALAMRI HUSSIAN ALI A (サウジアラビア)

FAISAL A.M. ALRASHED (サウジアラビア)

薛 鈺臻 (台湾)

NG WEI YANG (シンガポール)

史 晓悦 (中国)

林 孟賢 (台湾)

袁 兴 (中国)

CEOLIN KINZI (フランス)

王 吉 (中国)

朱 辰 (中国)

金 裕澈 (韓国)

李 光帅 (中国)

李 玉洁 (中国)

NURDI NICOLE (インドネシア)

邹 晓丹 (中国)

李 创 (中国)

THEN HOU REYN (マレーシア)

韩 雪璐 (中国)

任 鍾浩 (韓国)

饒 國騰 (台湾)

陳 妍伶 (台湾)

孫 聿諄 (台湾)

賴 俐仔 (台湾)

林 威廷 (台湾)

张 鑫 (中国)

于 文 (中国)

申 湛 (中国)

SAMANI EISSA ISMAEIL HI (カタール)

上級参加者 34名

何 昱霖 (台湾)
盖 文骏 (中国)
王 受豪 (中国 香港)
郭 怡呈 (台湾)
何 苡瑄 (台湾)
郝 宇鹏 (中国)
郭 珊珊 (中国)
孟 晓伟 (中国)
苏 海文 (中国)
金 雪美 (韓国)
马 荣阳 (中国)
张 颺颺 (中国)
张 凯 (中国)
權 寧智 (韓国)
房 雅萃 (中国)

INGRID LIMAN (インドネシア)

韩 梅 (中国)

TRAN KIEN (ベトナム)

沙 漠 (中国)

曾 瀟儀 (台湾)

谷 文 (中国)

张 鹏 (中国)

杜 哲旭 (中国)

陈 琰彬 (中国)

ALRAMADHAN, FATEMAH DAWWOD S (サウジアラビア)

金 秉坤 (韓国)

ANOTAIYUENYONG RAVEE (タイ)

范 忱炜 (中国)

张 贺 (中国)

周 芷筠 (台湾)

范 鈺 (台湾)

張 均竹 (台湾)

王 维 (中国)

ATAYEE JAFAR (アフガニスタン)

故郷

RADHAKRISHNAN ASHWIN (インド) ラダクリシュナン アシュウィン

最優秀賞 (初級)

あなたがだれであれあなたが故郷を離れて自分で新しい生活を始めるのは容易なことではないでしょう。あなたが生まれ育った場所からなん百ゃくキロも離れた所での新しい生活になれるのは難しいのです。その場所では数えきれないほど多くの思い出があります。

私はまだ長く生きてはいないけれども、すばらしい体験がたくさんあってまざまざなことを覚えています。でも、ほとんどその一瞬にいた時体験したことの重みに気づいてはいないので。都市のあわただしい生活とそふぼを訪ねた時田舎ののんびりとした生活を体験したことがあるので私はとても幸せだと思います。その体験をした時のいい気持ちが今でも忘れられません。上半身裸で川にとびこんだことや、縁日に行われた行事や、お祭りに人々の嬉しそうなかおを見て私も嬉しくなったことや、果物をもぎ取るために木の上にのぼったことや夜空を見てわからないことを考えてみたことやハイウィーをバイクにのって走ったことや友だちと一緒に遊びたわむれたことなどそのほかこのような体験が私の心にのこっています。しんばいしないで

生活することの大切さをこれらの体験が私に教えてくれたのです。

故郷を離れた時それらすべてが恋しくなると思っていたのですが、まちがっていました。日本の青空に絵の具で書かれた紫の雲海に故郷を見つけました。私の体をうつ冷たい風に、昼間の太陽から身をまもる木のかげに私の故郷を見つけました。駅で待っている美しい女性のびしょうに、娘さんの手をとって道をわたっているお母さんの守ろうとする心に、新しい友だちとの付き合に私の心の故郷を見つけました。

私のいい思い出もそのような小さな体験をとおして得られたので私は今くつろいでいます。

私の故郷は私の今まで心に集めた思い出ですから私はさびしくありません。

私はもうホームシックにはなりません。

未来からの手紙

万 俊轍（中国）バン シュンイツ

優秀賞（初級）

万君

拝啓

お元気ですか。僕は三十年後の君だよ。君に幸福と夢の本当の意味を知らせるためにこの手紙を書く。この手紙は君にとって有益なことだと思う。

夢について。

恐らく誰でも子供のころにはいろいろな夢があった。しかし年を取るにつれて、一部の人の夢はなくなってしまう。お金のために夢を諦める人もいるし、社会的地位を得るために夢を諦める人もいる。それは、大変残念だね。夢を持っている人には魂がある。だからこそ、この人の生活は充実していて、彼は自分の夢を実現するために全力投球で努力する。

君は子供の時から自分の夢を持っていた。それにここまで夢を持ち続けている。そのことが僕はとても嬉しい。一流のプロダクトデザイナーになるというのは困難な過程だ。優秀なプロダクトデザイナーは身近にある物を細かく観察し、創意に満ち溢れる美しい物作りの能力を身につけなければならない。どんな困難があっても君はずっと自分の夢を持ち続けていってほ

しい。夢を持つ人はきっと成功できるからだ。

幸福について。

僕にとって、幸福と言うのは平凡だけど退屈じゃない生活だと思う、君は普通の人に過ぎないので分不相応な人生の望みを抱かない。しかし、平凡な人もすばらしくて充実した生活を選択することができる。君が三十五歳の時、君に愛され、君を愛する人と結婚して、可愛い子供が生まれる。ちょっと貯金があって、天気がいい週末に家族とピクニックに行く。この平凡だけど退屈じゃない生活こそが本当の幸福だ。

ご健康とご多幸を祈りつつ。

敬具

未来の君より

周囲のことを大切にしてください

廖 偉廷（台湾） リョウ ウエイティン

優秀賞（初級）

いつも自分に何が世界で一番幸せかを聞きます。前はお金持ちになって、自分の家があって、重要な地位を占めることだと思いました。しかし、会社に勤めた後は周囲のことを大切にするのは世界で一番幸せなことだと思うようになりました。

踏みしめた人生を何度も見つめ返すと、ほとんど何も悪いことはありませんでした。私は大学卒業前に両親に庇護され、卒業後いい会社で働きました。私は私が幸運だと感じました。しかし、会社に勤める時間がだんだん長くなって、夜に一人で働く日が多くなり、私はだんだん不満を持つようになりました。あの時はいつも気持ちが悪くて、運も悪かったです。

成功者が書いた本を読んだり自分で考えたりして、問題を解決することができないことに不平をこぼさずに機会を手に入れたらしつかりつかまなければならぬということがよくわかりました。今までたくさんの友達と知り合いましたが、その中には上司に罵られることで毎日怨んでばかりいる友達もいました。人生のチャンスを掴もうとしない人は非常に残念だと思います。

す。彼らは人生に何も満足せず、心の中は不満でいっぱいです。

今年私は地震が起こったので、東京から大阪の学校に転校しました。そして、やさしくて厳しい先生や助け合うクラスメイトと出会いました。また、大阪人の親切に触れ美味しい食べ物を味わうことができました。卒業してもずっと私の胸に残るだろうと思います。

生活の周りの色々なことを大切にします。細かい所やことを観察すれば、幸せが近くにあるかもしれません。私は5時45分の仕事がひけるベルの音が聞こえると、もう一日が終った感じがして寂しいと思いますが、気持ちがよく安心した気分になります。機会があればゆっくりやさしいベルの音を聞きますよ。

母のあいじょう

SSENFUMA YUSUFU (ウガンダ) センフマ ユスフ

優秀賞 (初級)

かぞく七人の中でぼくは一番下の男の子供なんです。ぼしかていでそだってかんじたことは、あいじょうが一番大切であるということです。私の母は世界で一番の母親だと思います。なぜなら父親がしんでからもさいこんせずにずっとぼくたちかぞくをとてもあいしてくれたからです。ぼくのがくひのためにいっしょうけんめいはたらいてくれました。きょうだいぜんいんをたくさんあいじょうてそだててくれました。中学生のころよくきょうだいげんかをしていると、母は泣きながら「けんかはためとおしえてくれました。それからはけんかはやめました。大人になっていく中で、母親へのかんしゃがどんどん大きくなりました。学校が始まって、四か月は、ウガンダでは家からはなれてくらさなければならぬのです。母は私に「よく勉強してたくさんどくしょをしなさい。あなたをあいていますよ。あなたのかがかやかしいみらいをしんじています」と言いました。子供のころぼくは遊んでばかりいてあまり勉強しませんでした。しかし、学校にいる時ぼくは母のことばを思い出しました。そのこと

ばのおかげでぼくははげまされました。今母は遠くにいますが、母のことばはぼくをいまでもはげましてくれます。ぼくはおもちゃなど、子供が遊ぶどうぐを何も持っていなかったけれどもぼくの母はいつも歌を歌ってくれたりダンスをおどってくれたりしました。そのおかげでうれしくなりました。

友達

尹 連實（韓国）ユン ヨンシル

優秀賞（初級）

このごろのように何も着なくても暑い夏や両手をもみながら歩いても寒い冬のように、何もまとうものがなくても両手をもんであげることができる友達、私はそんな友達がいてありがたくて幸せです。

友達は親兄弟の代わりをしてあげたりお互いに心の傷を治療し合う医者になったりします。友達との対話で共感を得たり、共感することができない時もあるがそれも私にとって重要な学生時代の思い出になりました。韓国での友達は共感を得たり、共感することができないが、私が日本へ来てできた友達はお互いに国が違って、言語が違って話が通じない外国人の友達にも話が通じる韓国の友達に劣らない友情を感じることができます。

私は初めて日本へ来て学校に通って外国人と友達になることができるか心配でした。親しくなりたいですが、言語も違ったら友達になる方法も違うと思いました。しかし、日本へ来てから4ヵ月が経った今、日本語の文法をまちがえないように言うとか手ぶりや目を見るだけですべて分かり合える友達になりました。

友達は国、言語に関係がないということが分かるようになりました。私が心の門を開いて近づこうとすれば、友達もそれと同じぐらい心を開いて近づいてくれるので、積極的な心が必要です。しかし、消極的な私にはとても難しい事でした。消極的な私が今の外国人の友達がいることはむしろ話が通じなかったから友達の話にもっと耳を傾けるようにするという長所になったのだと思います。

不思議なしゃりょう

N'GBE KADJO ALBERIC (コートジボアール) ングベ カジョ アルベリック

優秀賞 (初級)

げつようび あさはや おへや まど あ
月曜日に朝早く起きて部屋の窓を開
けました。ああ、空気も澄んでいる
し、空も晴れているし、気持ちがいい
です。私の部屋は日がよく当たる部屋
です。少し予習をした方がいいかもし
れないなあ。すぐ椅子にこしかけて日
ほんご ほん よ はし
本語の本を読み始めました。そこまで
はとくに変わったことはなかったので
すが、時計を見たら、ずいぶん遅く
なっていました。

あ さ はん
シャワーも浴びないで、朝ご飯も食べ
ずに南千里駅へ走って行きました。十
ぶん いじょうま
分以上待っていましたが、電車が来
ないので、心配になってきました。
やっとなのおもいで、しばらくがまんす
ることにしました。五分後でやっとな電
しゃ えき つ いそ
車が駅に着いて急いでしゃりょうに乗
りました。電車の中ではれいぼうのお
かげで涼しくて心が静まりました。
さんじゅうぶん た みなみもり まち えき つき
三十分ぐらい経って南森町駅に着きま
した。左のドアが開いたので電車を降
してんのうじ まえゆうひ が おか い ち かつ
りて四天王寺前夕陽ヶ丘へ行く地下鉄
のホームへ急いで行って待つことにし
たのです。このホームに着いた時には
もう向こうへ行く地下鉄が到着したと
ころでした。「ぜんは急げ」と言い
ますから早く走って電車に乗れまし

こころ しず いき
た。心が静まってから、ひと息ついた
とき なに き
時、何か気になってきました。実は回
りの人はみんな女性でおどろいて私を
見ていたのです。ドアのそばの席に
すわ けしょう ひと おお
座ってうまく化粧をしている人が大ぜ
いいました。えっと、これはどういう
ことだろう。どうしてみんな女の人な
のか。男の人はこのしゃりょうに入れ
ないのかなあ。そう考えながら、若い
むすめ たち き
娘さん達のおしゃべりを聞いていたの
ですが、私のことを話し合っているよ
うでした。私を見たり笑ったりしてい
ました。やっとな気がついて、あること
を思い出しました。九時までの電車は
じょせい だんせい
女性だけのしゃりょうがあり、男性は
の となり
乗ってはいけないのです。隣のしゃ
りょうには男の人と女の人もいたの
で、すぐそちらへ行きました。私は安
しん
心しました。

留学生の目から見る東日本大震災

李文（中国）リブン

最優秀賞（中級）

今年の4月に来日した留学生にとって忘れたくても忘れられない出来事があります。私が荷物を用意していた間に、東日本大震災のニュースが爆弾のように届き我々の平静で期待でいっぱいの気持ちが比類のない驚きに変わっていきました。皆は慌てて家に帰って、絶えず日本の番組の中継に関心を寄せていました。地震と津波に打ち碎かれた建物と助けられなかった被災者を見ていた時、千里以上も離れた我々の心も悲痛を感じていました。

若い私たちにとって頼れるニュースは、インターネットでした。パソコンをつけた時、私は別の光景を見にしました。震災後の凄惨な光景の代わりに、ほとんどの写真の中で日本の被災者が平静で秩序正しく避難所で待っている、列に並んで物資を受け取っている光景がありました。多くの大学と旅館は安全な臨時避難所になって、多くのコンビニとレストランは快速な物資補給ステーションになりました。日本はこの全世界を驚かす災害の前に冷静で、意識的に、迅速な反応をしていたので、私は本心から感服しました。全世界は今回の東日本大震災を通して貴

重な授業を受けました。

2008年の中国の汶川大震災と比べてみると、私はさまざまな感想を持っています。地震が少ない中国では、人々は普通それを「天災」と見て、自然災害に対して警戒心をゆるめてしまい、こんな酷い災難が襲った後で、対策を考え始めます。ところが、私は日本に来て初めの日に、学校から「非常持出袋」をもらいました。その時に、日本人なりの「危機感」という気持ちがはっきり感じとれました。災難が来る前に十分の準備をして、人間の能動性を発揮して、最も危い時に自分を守れるようにしているのです。

さらに私を感動させたのは、日本人が自分は危険の中にも他の人のために考えているという点でした。ある人はTwitterで「避難の過程で必ず外国人を助けてあげてください」という日本人の話を見ました。こんな責任感が外国人の被災者にとってどんなに大きい慰めになってことでしょう。ある留学生がインターネットでこういう書き込みをしていました。「私たちは大変不幸なことに、異国の地でこんな

酷い災難に遭遇した。でも私たちはとても幸運だ。それは日本にいるから。」このような評判は、留学生からの日本の国に対する最高の褒め言葉かもしれません。

今回の地震は、私の留学生活により深刻な意味を与えました。孔子は「見賢思齊」（賢い人に会ったら良いお手本として見習いなさい）という言葉を残しています。私が最も学ぶべきことは日本の文化を賞賛して、日本の社会文明を体験するだけでなく、その地震の中にいるとしても、どこでも「意識的な責任感を持つことです。どんな状況でも冷静に自制をして、他の人のことも考えて役に立つことに尽力します。この貴重な品格は人間につき必要だと思います。私はこれからの留学生活を通じて、本気でそれを体得して学びたいと考えています。また、私は日本が災害から復興するのを見ることができて光栄ですし、チャンスがあれば日本にいる間に積極的に自分のできることをして、早く日本語がうまく話せるようになり、進んでボランティアとして社会のためにもっと多くの奉仕をしたいと考えています。

中国の汶川大地震の後、私の国の総理である温家宝氏は灾区のある小学校の黒板に「多難興邦」（多難を契機にして、国は繁栄していく）という言葉を書きました。私はこの言葉を日本の

友人達に伝えて、日本を激励したいと思います。全世界の関心と援助を得ている日本は、きっと苦難を乗り越えられるだろうと思います。私は日本の復興の道には、必ず新たな光があると信じています。

私の故郷の河

丁 洁璐（中国） チョウ キロ

優秀賞（中級）

以前、私の家のそばには小さい河がありました。この河の水はとても澄んでいて、水底まで見ることができました。河の両岸には木が並んで植えられていて、本当に綺麗で落ち着く場所だったので、夏休みの時、私は常に友達と一緒に河の周辺で遊んだり話したりしました。この風景は私の小学校の時の思い出、つまり20世紀90年代のことです。残念ながらその時、中国ではカメラを持っている家庭はあまりありませんでした。しかし、その時から中国は開放政策ゆえにめまぐるしい変化が始まりました。そして、私の周辺と生活も私が理解できない早さで変わり始めました。

中学生のころ、私はいつもの習慣で授業の後、河のそばに寄り道しました。しかし、河の風景はだんだん変わっていききました。人でにぎわう声の代りに伐採の騒音が聞こえました。河のそばには建物や工場などのコンクリート建築物が建てられました。私は木が次から次へと倒れる場面を見て、悲しい気持ちになり、その時からそこに行く回数が少なくなっていました。

3年後、私が高校に上がる頃、河はもう上海で一番汚い河と知られていました。河の中には魚や蝦どころか生きている生物はいなくなっており、水は濁っていて、水面には油のようなものが浮んでいました。そして、もっと悪いのは水の中からとんでもない悪臭が発生し、遠くでもこの匂いがしました。これは付近の工場のせいで、工場の排水を全部処理せず河に流したからです。これらの工場は有機物に関する物を生産していました。有機物は自然の中で自力的な分解能力が低いのです。そのため、この河は4年たらずのうちに河としての生命を失ってしまいました。

昔の人は「人は過ちを踏んだ後、初めて間違いを知る。」と言いました。そして、国家の発展でもそれは当てはまります。上海は工業の発展から得た利益をほかの産業に投資し始め、私の故郷も有名な大都市としてだんだん名が上がりました。しかし、大都市としてその河の存在は相応しくないことを意識して、政府は手をうつようになりました。初めは工場と煙突の全面的な引越しをし、そして、草や木

を植えました。河水の汚染と腐臭問題はいろいろな専門家に任せられ、河の全休を回復させる方向に進められました。

ある日、私は大学の寮で新聞を読んでいて突然一つの記事に目が止まりました。河の中で小さな魚が発見されたというものでした。「5年かかって、ましになったのか。」私は呟きました。この日、授業が終わった後、私は河を見に行きました。河のそばに立ってみると、水は以前より大分きれいになって、中に小さい魚も見えることに気付きました。しかし腐臭問題は前ほど深刻ではないものの、微かですが匂いがまだ残っています。

この河の名前は「苏州河」と言います。上海の環境問題の象徴物として、80世帯の上海人の心に刻まれています。私はこの苏州河の教訓により現在世界中にある環境問題にあらためて目を向けるようになりました。世界で様々な環境問題は経済発展の下で始まり、自然破壊を代価として終わります。しかし、人類が物質生活に満足した後は精神生活を求めよりになり、その中でもいい環境が不可欠なものとなりました。莫大な資金と長い時間をかけて環境を元の姿に戻したいという人々の願いは悲しく矛盾しています。けれども、人間が存在するかぎり、かならず発展を求め、そして自然

に対する破壊は避けられないことです。だから、環境問題を徹底的に無くすことにこだわるより、人類発展と環境保護のバランスをどうやって取るかが将来地球進歩の鍵になるはずです。

似合う「服」をさがしている

史 晓悦（中国）シ ギョウエツ

優秀賞（中級）

仕事が面白かったら、人生の半分の時間は楽しいので、「5年後、10年後私はどこで何をしていたいの？」とよく考えます。でも、自分を知らないし、自分が行く先も見えていません。「このままでいいの、何が好きなの？」と言って困っていました。しかし、最後に自分の好きな物が見つかりました。やはり洋服です。

母は洋服の会社を営んでいます。母のおかげで洋服のデザインとか、商品を売るとかよく知っています。でも本当に私の心を動かすのは洋服に対する母の熱烈な愛です。前は人が見た目がすべてじゃない、中身があやふやな人間にかぎってと思っていました。母は、「大幅に、人は見た目がすべてよ。その人の内面のすべてが外見に表れるの。だから、見た目で分かるの。外見を含めて、自分だと受け入れられない人は未熟な人間でしょ。」と言いました。そうですよね、もし人間が自分の外見も軽視すれば、ほかの物を重視できないだろうと思います。

日本の服装は特殊性を追求することによって世界的によく知られています。母は「たとえ不況下において

も、人々がさまざまな型の服を着て、自分をよく見つめて、更に輝かせようと努力しています。」と言いました。そして、女性っていつも変わりたいと思っているし、美しくなりたい、強くなりたい、新しい自分になりたいと思っていますから、服はその人の自信さえ引き出します。

似合う服を着て、鏡の中で新しい自分を見つけた時のお客さんの表情、それは女性が一番いい顔をする瞬間に立ち会えるところです。これは母の目標です。

これは母と洋服の縁です。母の話を聞いて、私は感動しただけでなく、自分も心から洋服が好きになりました。まず、自分のことをよく知る以外にない。自分を知らなければ、似合う服など分からないんです。一番簡単な方法は鏡を見ることです。鏡を見れば、何が欠点かとか、どこがコンプレックスかとか、自分が何を持ち、何を求めるかとか、どんな人間になりたいかとか、すぐに見つかります。その後は、もし思い立った時が動く時なら、成功できるかもしれません。いつも「無理だ」とか、「明日からしま

す」とか、そんなことを言っているうちに人間が動けなくなってしまうんです。そうすれば、夢はあっという間に現実に埋まってしまいます。

それに、すぐに行動を起こしたかったら、もう一つ注意しなければなりません。それは自分の方向を堅持することです。有名なデザイナー、ココシャネルは「掛けがえのない人間になりたいんだったら、人と同じことをしてはだめよ。」と言いました。例えば、皆が一斉に同じ方向に歩いている時に、何か違うなって感じたら、反対方向に歩きだす勇氣。自分の希望が本物なら、その勇氣を後押ししてくれるはずです。もし自分が本当に掛けがえのない人間になりたいんだったら、新しい道を作る時、一人を受け入れる覚悟を持つことが必要だと思います。

どこで生きるか、誰と生きるか、未来は自分で決めるものなので、やはり自分しか決められられないだろうと思ったからです。

すばらしい将来のために、今から自分の足で、しっかり歩いてみようと思います。似合う服をさがしてみてもいいかがでしょう。

日本の母たち

CEOLIN KINZI (フランス) セオリン キンジー

優秀賞 (中級)

私の家族は父と妹と弟と私で構成されていて、一般の家庭とは少し違う家族だと思っています。実は、八歳になった時に母が私達を置いて出て行ってしまったので、長女の私が母親のように弟と妹の面倒を見ながら進み続けました。父が再婚をしなくて母のような人がいなかったから、父が私の人生で非常に重要な役割を果たしてくれました。父のおかげで母がいなくても私はとても楽しくて幸せな子供時代を送りました。それで、母親がどんな人かを考えずに、残念ながら私にとって母親はいらないものとずっと考えていました。でも、この作文を書くのは自分の幼年期を読者に哀れんでもらうことを目的としません。事実として、言いたいことは奇妙なことに日本語学校に入った際にお母さんがいるのはどんなことかを初めて感じたということなのです。どうしてこの感情をこの学校で初めて体験したのでしょうか。

まず、日本と比べてフランスは個人的な社会だから、学校での先生の伝え方はこの二つの国ではまったく違うと思います。はっきり言うと、フランスでは社会の進歩より個人のあこがれや

成功が大切なのに、日本では各人が自分の個人的な希望をわきにのけて社会のためにみんなががんばっています。それは学校でも感じられます。例えば、パリの大学で授業を受けた時、先生が教える理由は自分の知識化や経験を学生に伝えたいというわけではないと感じました。先生が教えたくなくても生きるために働かなければならないので、仕方なく教えているとたびたび感じたことがあります。学生の成功を気にしない先生の授業はつまらなくて、学生たちも授業の内容を気にしないようになってしまいます。実はそれはフランスだけでなく大阪府立大学へ一昨年に交換留学生として九ヵ月だけ勉強しに行った時もこういう気持ちを感じたことがありました。

しかし、今年の四月に日本語学校に進学した際に熱心な先生達と出会いました。現在、私のクラスで教えている先生達のそれぞれの独特の味で毎日楽しみながら一生懸命勉強することができます。でも先生が私に勉強したい気を起こさせただけでなく各人の特別な教え方や個性のため今まで私にはいなかった母親や私がなりたい母親像を実

際に想像することができました。例えば、ある先生はいつも学生の最高の能力を発揮させるために私達を厳しく、励まします。ごく小さな間違いにも注意して、学生のわからないところをわかるようになるまで 一生懸命説明したり、例文をあげたりします。それに、先生が常にやわらかくて断固たる声で話すので、お母さんが子供に思想や助言を広めるように学生と話しています。そのほかにも、ある先生がいつも何か誰かに冗談を言いながら楽しく授業を進めています。さらに、みんなが授業に参加するように活気のある授業をして、その先生が私達は平等でいてもさまざまな個人的の能力を持つことを感じさせるのが得意です。そんな理由でまるで母が娘に満足しているように先生達が私達に満足してくれるようにもっとがんばりたいと思います。だから、もし母親がいるとしたら先生達の色々な性質をまとめた人がいいと思います。将来、いつか結婚して子供ができる希望がずっとありましたが、やっと先生たちのおかげでどんなお母さんになりたいか具体的にわかってきました。この先生たちを手本として自分の能力を発揮するためにある時は厳しくして、またある時はいつも敬意を抱いていながら冗談を言って、子供たちの特別な個人的能力が引き出せるように母として子供を育てて

みたいです。

そうすると結論として、学校は実に人間形成のよいところなのではないかと思っています。

私の「トイレの神様」

金 雪美（韓国） キム セツミ

最優秀賞（上級）

皆さんは「トイレの神様」という歌を知っていますか。私はこの歌が大好きです。この歌はおばあちゃんを歌ったものですが、私はこの歌を聴くと大好きだったおじいちゃんを思い出すからです。

私は生まれた時、先天性股関節脱臼という病気があったので、2歳までずっと病院にいました。退院した後でも4歳ぐらいまでは毎週検査に病院に行かなければなりませんでした。外で遊ぶこともできなく、友達も全然いなく、いつも病室でひとりぼっちでした。その後も両親も仕事で忙しく、私の世話をする時間がなかなかなかったので、私は小学校に入るまで田舎に住んでいたおじいちゃんに預けられました。「トイレの神様」とそっくりです。

おじいちゃんの家に着いた日は今でも昨日のことのよう、はっきり思い出せます。母とバスを降りたら、おじいちゃんはもうバス停に待っていました。おじいちゃんの家に着いてから母は荷物を部屋に運んで、簡単な挨拶をして私に「雪ちゃん、おじいちゃんの言うことをよく聴いてね。ママはまた来るわ。」と言ってさっさと帰りました。母の後ろ姿を見て実はそういう父と母をちょっと恨みま

した。私の気持ちが分かったのか、おじいちゃんは「雪ちゃんは幸せだな。お父さんもお母さんも雪ちゃんのためあんなに一生懸命働いてるね。」と言いました。そのおじいちゃんの一言で、病気を持った娘を育てるために両親がどんなに苦労して働いてるか、少し分かった気がしました。

脚のため激しい運動はできなかったのでおじいちゃんによく私と凧揚げをしながら遊んでくれました。おじいちゃんはいつも風を高く飛ばせました。「おじいちゃん、私も私も」おじいちゃんは糸を私の手に渡しましたが、凧の糸が私の手に入るとすぐ落ちてしまったのです。「おじいちゃん、おじいちゃん、もっと高く飛ばせて。」とおじいちゃんに言ったら、おじいちゃんは私にこう言いました。「凧はどうしても糸の長さより高く飛べないんだ。凧はかわいそうやな。鳥のように行きたいところにいけなくて。」その時はまだ、おじいちゃんが言った意味が分かりませんでした。

いつの間にかおじいちゃんと暮らして三年になって、私もそろそろ学校に行く年になりました。学校の生活に慣れた私は、だんだんおじいちゃんと連絡しな

くなり、おじいちゃんのところに月に一回くらいしか行かなくなりました。行くたびに、おじいちゃんはいつも私が好きな料理を準備しておきました。そして、次はいつ来るかと聞いて、すぐにカレンダーにしるしをつけました。でも私は時々約束を守れませんでした。おじいちゃんに電話したら「そうか、そうか」と言うけど声からおじいちゃんの失望が分かりました。

そしてある日、家に帰ったら母はとても暗い顔をしていました。「どうしたの？」と聞くと「おじいちゃんが。。。｣とだけ言いました。急いで病院に行きましたが、おじいちゃんはまだ亡くなっていました。やせた黄色の手はまだ暖かかったです。父はおじいちゃんが最後まで私の名前を何度も呼んでいたといいました。この時、私は初めて死ぬと言う言葉の意味が分かりました。どうしてもっと一緒にいてあげなかったかと強く後悔しました。冬のある日、おじいちゃんは私の世界からいなくなっていました。

公園で、女の子とお父さんが楽しそうに凧揚げをしているのを見ました。凧が空高く飛んでいるのを見て、やっとおじいちゃんの話の意味が分かりました。凧は人が糸を引かないと自分では飛べません。でも鳥は自分の羽があるから自由に、高く飛べるのです。おじいちゃんは私に凧じゃなく、鳥になってほしかった

のです。誰かにしっかり守られていても、自分の意志では飛べない凧になってはだめだと言いたかったでしょう。私は両親の期待に答えて、大学の医学部に入りました。医者になれば凧のように安全だからでしょう。でも、私は両親の反対を押し切って医学部をやめ、子供の時から夢だった建築家になるため日本に来ることにしました。おじいちゃんがきっと応援してくれると信じたからです。私の部屋には、いつもどこに行っても、おじいちゃんが作ってくれた古い青い凧が一緒にあります。「雪ちゃんは凧じゃないよ。自分の羽があるから自由に高く飛びなさい。」といつも私をはげましてくれます。私は「トイレの神様」の歌を聴く時、「おばあちゃん」の代わりに「おじいちゃん」と置き換えて、一緒に歌っています。

「おじいちゃん、ごめんなさい、
おじいちゃん、ありがとう。」と

なぜ猫は鼠を食べるのか

马 荣阳（中国）マ エイヨウ

優秀賞（上級）

私は小動物の中で猫が一番好きです。猫は本当に可愛いですね。ところでアニメ「トムとジェリー」の猫のトムはいつもジェリーを追いかけています。考えてみると、猫はどうして鼠を追いかけて、食べるのでしょうか。

これは古い歴史があり、また非常に興味深い問いです。

科学的な説明によると、猫が一定期間鼠を食べずに過ごすと彼らの夜間視力は少しずつ衰えていくということです。これはタウリンという物質に哺乳動物の視覚能力を高める効果があるらしいのです。

猫の体内からタウリンが長期間欠乏すると、一目瞭然猫はしだいに非識字状態に陥り、夜間の活動能力を失います。しかしながら、鼠の体内には一種特殊な物質が存在し、自身の体内でタウリンを合成する能力があります。よって猫は絶えず鼠を捕食することによって体内のタウリン不足を補うことができ、これをもって彼らの夜視能力を正常な状態に保つことができるのです。

しかし、ここで私が話したいのはこれとは別の説明です。私は高校の時中国語の先生からこれについてこんな話を聞きました。

ある会社の社長は近頃商売が順調に運ばないことでひどく悩んでいました。会議室に入ると、ちょうどおかかえ運転手がソファの上で足を組んで座り、新聞を読んでいるのを見ました。思わず怒りがこみ上げてきて、運転手を非難してこう言いました。「暇なら車を磨きに行くくらいできるだろう。」運転手はこれを聞いてひどく不満を感じました。なぜならつい先ほど奇麗に洗車したばかりだったからです。その上彼もまたちょうど別の人の手伝いを終えたばかりで、やっと落ち着いたところだったのです。運転手は午後いっぱい気分の悪い思いを免れませんでした。

仕事が終わって家に帰り、玄関のドアを開けると、息子がテレビゲームで遊んでいました。思わず悲しくなってしまう。「私には前途がない、私は人の代わりに車を運転するだけなのにのしられるし、この子は些とも努力しようとしなない。」彼は息子を叱ってこう言いました。「おまえは一日中ゲームばかりして、少しは進歩したらどうか？」

息子はこれを聞いてたまらなくやりきれない思いがしました。なぜなら彼は今日試験を終えたばかりだったからです。

家に帰ってからちょっとゲームをしてリラックスしてただけで、こんなに激しく怒られるとは思ってもみなかったからです。息子は立ち上がって台所に逃げ込みました。

その時、飼っている子猫が台所に入ってきたのを見て、息子は理由もなくにわかに怒りがこみ上げてきて、子猫を蹴っ飛ばしてしまいました。結果はどういうことになりましたか。猫は自然大きな不満を感じ、やりきれない思いでいっぱいになりました。ちょうどその時一匹の鼠が猫のそばを通り過ぎました。猫は腹いせに鼠を捕まえて食べるに至りました。

つまり、この物語の中で、たった一人の社長の仕事上のトラブルが、最後には意外にも猫と鼠の関係にまで影響を及ぼしてしまいました。これこそが、猫が鼠を食べる理由です。

これは一つのとてもおかしく、かつとても悲しい循環です。運転手はなすすべもなく社長に傷つけられ、それが原因で帰宅後、自分の息子を傷つけてしまいました。そのせいで、息子は飼っている猫を傷つけ、最後にはその猫が鼠を傷つける結果を招いてしまいました。

ここでの登場人物は皆他人の気持ちが元で自分自身の気持ちに影響を与えています。すべての登場人物は皆他人の行動が自分の運命に影響を及ぼし、同時に別の人を傷つける結果を招いているのです。でも自分ではそれを自覚していません。

ん。これこそがこの世界における苦痛の源です。

なぜ、他人の能力の及ばなさや弱点に影響され、しかも私達の人生をぶち壊されなければいけないのでしょうか。理不尽ですね。

私達は世界を選択する自由はありませんが、自身の気持ち、反応を選択することは確かにできます。つまり、積極的な人生の態度が選べます。そのため、喜べる心というものはないといけません。自分にあった自分の幸せの席はもうちゃんと用意されているはずです。

それから、自分を大切にすることは何より重要です。心声をじっくり聞き、欠点ばかりに目を向けない、笑っていられるようにしたほうがいいです。自分の人生を歩いて、一人で立ち上げる力をつけます。もしそうならば、私達自身も機嫌がよくて幸せになるし、全社会的に人間関係も柔らかくなります。

最初に述べたアニメに戻ると、こう考えれば、トムはもうジェリーを追いかけるようになるでしょう。でも、あんまりジェリーが可愛いと、違う気持ちで追いかけてなくなるのかもしれませんがね。

かねを預ける？使う？

陈 琰彬（中国） チン エンピン

優秀賞（上級）

かねと言えば交換における価値の尺度となり、物やサービスを買うときに対価として支払われるものである。かねはまるで足で歩き回るように世間で通用することから日本では御足とも呼ばれている。

しかし、そこに問題がある。日本の二千年札を使う人はなかなか見かけない。けれども、二千年は日本の正式の貨幣として使われている。みんなが使わないかねもかねと言うのだろうか。友達は「かねはかねである、どんなにくちゃくちゃになっても、どんなに汚くなくてもかねである事実は変わらないし、その価値も変わらない。」と言ったのだが、何だかかねというより骨董のようだ。骨董なら使う意味がない。預けておけばいいんだろう。

預ければ預けるほど大がね持ちになるかもしれないが、そこで一つのお話をきいてもらいたい。このお話をおしまいまできくと、だんだんにかがはっきりしてきて、つまり、それがバカバカしい大富豪のお話であったことがわかるのです。むかしむかし、ある村に一人の大富豪がいた。その大富豪はいつも自分の金をわにある大きな

木の下に穴に隠していた。毎週彼はかならずそこへ行って、そこにある金を確認する。しかし、この大富豪の行動はある悪い泥棒に気がつかれた。そして、この泥棒は大富豪が外出したとき、穴の中にあるすべての金を盗んで行ってしまった。次の日、大富豪はまた自分の金を見に来た。すると、穴の中には何にもなかった。彼はそれを見て発狂するぐらいの大声で叫んだ。となりの人たちはその声を聞いて、何かあったと思って集まって来た。この大富豪は自分のことをみんなに話した。ひとりの村人は「あなたはその中のお金を取り出す予定がありますか？」と大富豪に聞いた。「そんなことはない、おれはただその金を見るだけです。」「じゃあ、また来て、その穴を見たらどうでしょう。これは同じくあなたを満足させますよ。」

使われないお金は、ないのと一緒にだ。このけちん坊な人は金の意味をぜんぜん知らなかった。たしかに金は安定価値の象徴である。しかし、金に頼りすぎるとパニックに陥るという歴史事件もあった。それは1929年の世界恐慌が原因だ。第1次世界大戦前は、通

貨価値の安定をはかるために通貨と金の兌換を保証する金本位制度が基本となっていた。しかし金本位制度は為替相場の安定という対外均衡の確保を最大の目的とし、対内均衡を犠牲にしがちであった。1929年の世界恐慌以後、多くの国が金本位制度を廃止して管理通貨制度を採用した。つまり一国の通貨量を金保有量の増減に直接的にリンクさせることなく、金融政策の目標の実現を通貨管理当局の自由な裁量によって調節する制度にしたのである。

そこで、まずロスが出ない金も大きな危機が隠れていることになる。貯金するのは本当にいいのだろうか。

グラミン銀行をみんな知ってるだろう。あのノーベル平和賞を獲得した総裁、バングラデシュの経済学者、ユヌスが創設した銀行である。彼は貧困層を対象に、無担保の少額融資（マイクロクレジット）を始め、土地も資産もないため銀行融資を受けられない農村部の貧困層の貧困からの脱却を支援した。おかねをうまく使えば光りなき世界に光を与えることができる。

うまくかねを使えば大がね持ちになるだけでなく、世界のよい未来も作れる。しかし、かねをどうやってうまく使えるのかが大きな問題である。まずは賭け事。日本人には、賭け事や勝負事が好きな人が比較的多い。しかし、賭け事というのは不安定性がとても大

きい、大がね持ちにも人生の終わりにもなる。それはうまいかねのつかい方とは言えない。アメリカ人やヨーロッパ人のように、まず借金して家やよい生活環境を作る、後で長い時間をかけてそのかねを返済する。それはいいことだ。だがアジア人の性格や習慣から見るとそれが圧力になるかもしれない。ちがう人にとってかねの使い方も大きく分かれている。かねを使えば使うほどいい生活になれるというのなかなかむずかしい。

かねを預けるのも使うのも危機がある。どっちがもっといいというのは本当に迷ってしまう。私の考えでは、やっぱり預けることと使うことの間で、自分に合っているバランスを探し出すことがよいだろう。

かねというものは人々に苦しみも楽しみも与える。このことに気を付けながら扱えば、きっと幸せに暮らせるだろう。